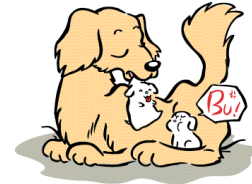


01-02-08 — 赤ちゃん石鹼(赤ちゃんは、いつまで“赤ちゃん”なの?) —

新人小児科医の頃(=50年以上前になります)は、
赤ちゃんも大人と同じ固形の”浴用石鹼“を使っていました
(まだ、“赤ちゃん石鹼”が一般化されていない頃の話です)。指導医から、
『**赤ちゃんの肌は脂性(あぶらしよう)肌だから良く洗う様指導すること**』と教えられた事を思い出します。



更に、『『良く洗え』だけでは十分理解してもらえないから、“具体的”に“判りやすく”説明をすること。こまごま言ってもすぐに忘れるので、**ずばり!**石鹼(=当時は浴用石鹼)で**良く洗うところ**は、『大人になって**“毛の生えている所”(=頭・脇の下・股)**”と**“関節”**。他の部分は流れてきた石鹼で洗えば良い。』これだけでOK。ただし、『**首も“関節”、指と指の間も“関節”**ですよ。』と付け加えること。』と教えられました。

ところが、“赤ちゃん石鹼”が一般化した最近、**生まれて3~4か月を過ぎた子にカサカサ肌**が多い(=赤ちゃん特有のすべすべした肌の子が少ない)事が気になっています(特に、空気の乾燥する冬に多い)。ここで、『“赤ちゃん石鹼”が粗悪なのか?それとも、その使い方なのか?』について考えてみました。

ポイントは、**①『赤ちゃんの“肌”は生後2~3か月を過ぎると、“脂性肌”から“乾燥肌”へと変わる。**(“乳児湿疹”の稿参照)』。**②『“赤ちゃん”は、何時まで“赤ちゃん”と言うの?』**という質問に**“正解がない”**』。この2点であり、それらが理解できると全てが解決する事になります。

ちなみに、**小児科の分類**には、生まれてから成人までの間で、“**赤ちゃん**”と言う時期は**有りません**。
【=**新生児**(生後28日以内)~**乳児**(1歳未満)~**幼児**(1~6歳/小学校入学まで)~**学童**~...です。】

つまり、“**赤ちゃん**”は“**通称**”なのです。“**脂性肌**”から“**乾燥肌**”へ変化する**生後3~4か月頃**に、**新生児の頃と違うカサカサ肌**が気になったら、“**赤ちゃん石鹼**”にこだわらず、“**ふつう**(=香料の強くない)の**浴用石鹼**”(液状より固形石鹼/使いすぎないため)に**変えてみたらどうですか?** 洗いは、上記の通り『**大人が“毛の生えている所”と“首と関節”は良く洗い。あとは、流れてきた石鹼で洗えば良い。**』です。